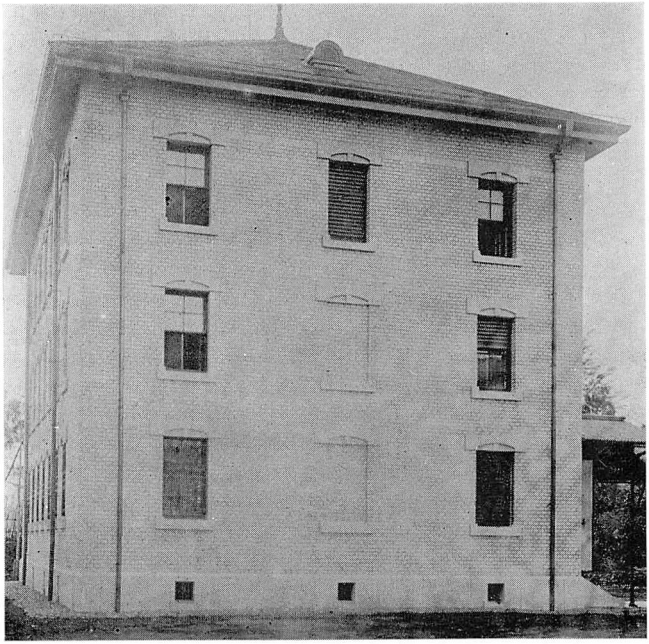

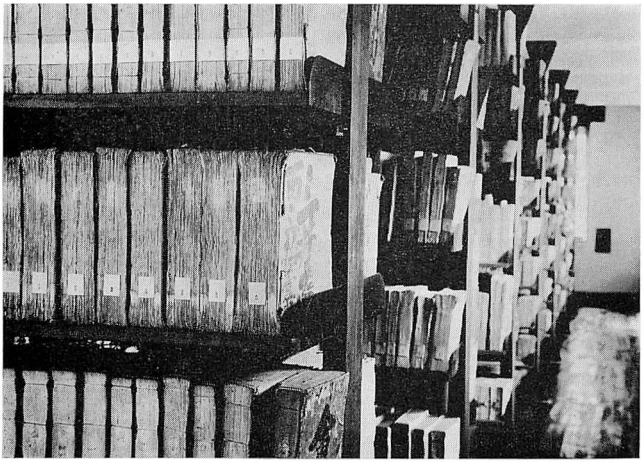

旧三井文庫第一書庫

口絵　旧三井文庫第一書庫

日本橋区駿河町の三井本館内に置かれていた三井家同族会事務局庶務課記録掛が、荏原郡平塚村戸越（現品川区豊町）の三井別邸敷地内の新施設に移転し、「三井文庫」と名称変更したのは、一九一八年（大正七年）一二月三日のことであった。「三井文庫」という名称が生まれてから、今年（一九八八年）でちょうど七〇年になる。

一九一八年に新設された三井文庫の施設は、事務所一棟と書庫一棟からなっていた。口絵写真上段は、新設された書庫（第一書庫）の外観であり、竣功直前の一九一八年四月に、三井高遂氏（新町三井家一〇代）によって撮影されたものである。第一書庫は、コンクリート三階建、総面積三一四坪の建物で、史料保存を目的とする洋風建築としては日本でも古い部類に入るとされる。ここには、主として江戸時代の帳簿類・記録類が格納されていた。

口絵写真下段は、第一書庫内部のようす。書庫入り口から北側に向けて撮影したものである（一九二四年七月撮影）。大坂両替店の「日記録」（全一一五冊）が排架されているところが写っている。この時代には、現在三井文庫で用いられているような紺色の帙（史料を保護するためのケース）は、まだ作られていないことが見て取れる。また書架が木製であることも時代を感じさせるものである。

敗戦後、一九四九年に戸越の三井文庫の土地・建物は文部省に売却され、旧三井文庫の書庫・事務棟を利用するかたちで文部省史料館が設立された。旧三井文庫史料は、一九六五年の三井文庫再発足まで同館に寄託されていたが、それらは第一書庫（史料館一号書庫）内に格納されていた。その後、一九七六年八月、国文学研究資料館／史料館の新改築工事に伴い、第一書庫（史料館一号書庫）は、旧三井文庫の事務棟などの諸施設とともに取り壊された（なお一九二二年に建築された新書庫《史料館二号書庫》のみは取り壊しを免れ、往時を偲ばせる唯一の施設として現存している）。

（西坂）